

3. 「2030年 世界はこう変わる」

(National Intelligence Council <米国国家情報会議> 編)

メガトレンド

- メガトレンド ① 個人の力の拡大
 - 16 貧困層は5割(5億人)減る
 - 17 中国の覇権は短命
 - 18 購買力の増えでいく人米国の国外
 - 21 広がる「外国」への移民
 - 28 人類は、多国籍化する
 - 29 「ネットローキー」の普及が不可欠

- メガトレンド ② 権力の拡散
 - 32 中国の覇権は短命
 - 33 抜かれる先進国
 - 35 新興国の台頭
 - 36 新興国の台頭

- メガトレンド ③ 人口構成の変化
 - 44 都市化する世界
 - 45 移民は増加の勢
 - 47 都市化する世界
 - 48 移民は増加の勢

- メガトレンド ④ エネルギー問題の連鎖
 - 64 エネルギー水資源の連鎖
 - 65 エネルギー水資源の連鎖
 - 66 エネルギー水資源の連鎖
 - 67 エネルギー水資源の連鎖
 - 68 エネルギー水資源の連鎖
 - 69 エネルギー水資源の連鎖
 - 70 エネルギー水資源の連鎖
 - 71 エネルギー水資源の連鎖

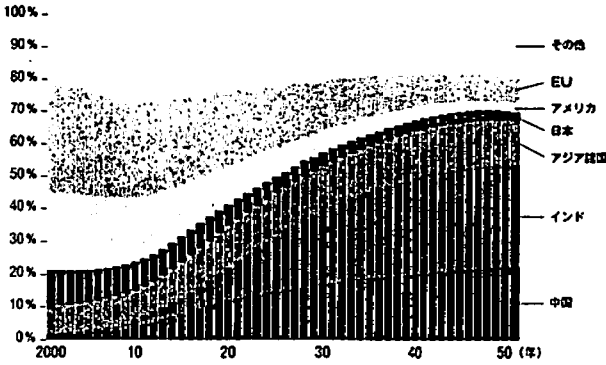
ゲーム・チェンジャー

世界の流れを変える6つの要素

- ゲーム・チェンジャー ① 急激な増殖する世界経済
 - 78 急激な増殖する世界経済
 - 79 急激な増殖する世界経済
 - 80 急激な増殖する世界経済
 - 81 急激な増殖する世界経済
 - 82 急激な増殖する世界経済
 - 83 急激な増殖する世界経済
 - 84 急激な増殖する世界経済
 - 85 急激な増殖する世界経済
 - 86 急激な増殖する世界経済
 - 87 急激な増殖する世界経済
 - 88 急激な増殖する世界経済
 - 89 急激な増殖する世界経済
 - 90 急激な増殖する世界経済
 - 91 急激な増殖する世界経済
 - 92 急激な増殖する世界経済
 - 93 急激な増殖する世界経済
 - 94 急激な増殖する世界経済
 - 95 急激な増殖する世界経済
 - 96 急激な増殖する世界経済
 - 97 急激な増殖する世界経済
 - 98 急激な増殖する世界経済
 - 99 急激な増殖する世界経済
 - 100 急激な増殖する世界経済
- ゲーム・チェンジャー ② 変化に乗り遅れる「国家の統治力」
 - 88 変化に乗り遅れる「国家の統治力」
 - 89 変化に乗り遅れる「国家の統治力」
 - 90 変化に乗り遅れる「国家の統治力」
 - 91 変化に乗り遅れる「国家の統治力」
 - 92 変化に乗り遅れる「国家の統治力」
 - 93 変化に乗り遅れる「国家の統治力」
 - 94 変化に乗り遅れる「国家の統治力」
 - 95 変化に乗り遅れる「国家の統治力」
 - 96 変化に乗り遅れる「国家の統治力」
 - 97 変化に乗り遅れる「国家の統治力」
 - 98 変化に乗り遅れる「国家の統治力」
 - 99 変化に乗り遅れる「国家の統治力」
 - 100 変化に乗り遅れる「国家の統治力」
- ゲーム・チェンジャー ③ 高まる「大国」衝突の可能性
 - 98 高まる「大国」衝突の可能性
 - 99 高まる「大国」衝突の可能性
 - 100 高まる「大国」衝突の可能性

- ゲーム・チェンジャー ④ 中東——現存化とイムムム数の暴落
 - 111 中東——現存化とイムムム数の暴落
 - 112 中東——現存化とイムムム数の暴落
 - 113 中東——現存化とイムムム数の暴落
 - 114 中東——現存化とイムムム数の暴落
 - 115 中東——現存化とイムムム数の暴落
 - 116 中東——現存化とイムムム数の暴落
 - 117 中東——現存化とイムムム数の暴落
 - 118 中東——現存化とイムムム数の暴落
 - 119 中東——現存化とイムムム数の暴落
 - 120 中東——現存化とイムムム数の暴落
 - 121 中東——現存化とイムムム数の暴落
 - 122 中東——現存化とイムムム数の暴落
 - 123 中東——現存化とイムムム数の暴落
 - 124 中東——現存化とイムムム数の暴落
 - 125 中東——現存化とイムムム数の暴落
 - 126 中東——現存化とイムムム数の暴落
 - 127 中東——現存化とイムムム数の暴落
 - 128 中東——現存化とイムムム数の暴落
 - 129 中東——現存化とイムムム数の暴落
 - 130 中東——現存化とイムムム数の暴落
 - 131 中東——現存化とイムムム数の暴落
 - 132 中東——現存化とイムムム数の暴落
 - 133 中東——現存化とイムムム数の暴落
 - 134 中東——現存化とイムムム数の暴落
 - 135 中東——現存化とイムムム数の暴落
 - 136 中東——現存化とイムムム数の暴落
 - 137 中東——現存化とイムムム数の暴落
 - 138 中東——現存化とイムムム数の暴落
 - 139 中東——現存化とイムムム数の暴落
 - 140 中東——現存化とイムムム数の暴落
 - 141 中東——現存化とイムムム数の暴落
 - 142 中東——現存化とイムムム数の暴落
 - 143 中東——現存化とイムムム数の暴落
 - 144 中東——現存化とイムムム数の暴落
 - 145 中東——現存化とイムムム数の暴落
 - 146 中東——現存化とイムムム数の暴落
 - 147 中東——現存化とイムムム数の暴落
 - 148 中東——現存化とイムムム数の暴落
 - 149 中東——現存化とイムムム数の暴落
 - 150 中東——現存化とイムムム数の暴落
 - 151 中東——現存化とイムムム数の暴落
 - 152 中東——現存化とイムムム数の暴落
 - 153 中東——現存化とイムムム数の暴落
 - 154 中東——現存化とイムムム数の暴落
 - 155 中東——現存化とイムムム数の暴落
 - 156 中東——現存化とイムムム数の暴落
 - 157 中東——現存化とイムムム数の暴落
 - 158 中東——現存化とイムムム数の暴落
 - 159 中東——現存化とイムムム数の暴落
 - 160 中東——現存化とイムムム数の暴落
 - 161 中東——現存化とイムムム数の暴落
 - 162 中東——現存化とイムムム数の暴落
 - 163 中東——現存化とイムムム数の暴落
 - 164 中東——現存化とイムムム数の暴落
 - 165 中東——現存化とイムムム数の暴落
 - 166 中東——現存化とイムムム数の暴落
 - 167 中東——現存化とイムムム数の暴落
 - 168 中東——現存化とイムムム数の暴落
 - 169 中東——現存化とイムムム数の暴落
 - 170 中東——現存化とイムムム数の暴落
 - 171 中東——現存化とイムムム数の暴落
 - 172 中東——現存化とイムムム数の暴落
 - 173 中東——現存化とイムムム数の暴落
 - 174 中東——現存化とイムムム数の暴落
 - 175 中東——現存化とイムムム数の暴落
 - 176 中東——現存化とイムムム数の暴落
 - 177 中東——現存化とイムムム数の暴落
 - 178 中東——現存化とイムムム数の暴落
 - 179 中東——現存化とイムムム数の暴落
 - 180 中東——現存化とイムムム数の暴落
 - 181 中東——現存化とイムムム数の暴落
 - 182 中東——現存化とイムムム数の暴落
 - 183 中東——現存化とイムムム数の暴落
 - 184 中東——現存化とイムムム数の暴落
 - 185 中東——現存化とイムムム数の暴落
 - 186 中東——現存化とイムムム数の暴落
 - 187 中東——現存化とイムムム数の暴落
 - 188 中東——現存化とイムムム数の暴落
 - 189 中東——現存化とイムムム数の暴落
 - 190 中東——現存化とイムムム数の暴落
 - 191 中東——現存化とイムムム数の暴落
 - 192 中東——現存化とイムムム数の暴落
 - 193 中東——現存化とイムムム数の暴落
 - 194 中東——現存化とイムムム数の暴落
 - 195 中東——現存化とイムムム数の暴落
 - 196 中東——現存化とイムムム数の暴落
 - 197 中東——現存化とイムムム数の暴落
 - 198 中東——現存化とイムムム数の暴落
 - 199 中東——現存化とイムムム数の暴落
 - 200 中東——現存化とイムムム数の暴落

■ 世界の中間所得層の購買力比較 (2000~2050年)



アメリカや日本の中間所得層の購買力が、今後急速に縮小していく。P24~25も参照
出典: OECD

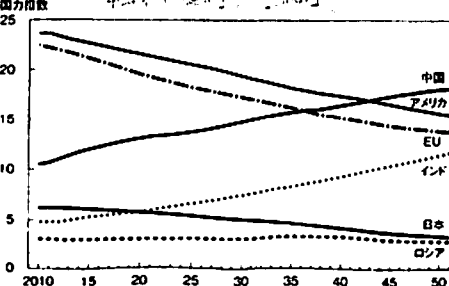
■ 人口構成でみる各国の「働きの窓」

国	2010年の中心年齢	2030年の中心年齢	「働きの窓」が開いている時期
ブラジル	29歳	35歳	2000~2030年
インド	26歳	32歳	2015~2050年
中国	35歳	43歳	1990~2025年
ロシア	39歳	44歳	1950~2015年
イラン	26歳	37歳	2005~2040年
日本	45歳	52歳	1965~1995年
ドイツ	44歳	49歳	1950以前~1990年
イギリス	40歳	42歳	1950以前~1980年
アメリカ	37歳	39歳	1970~2015年

国連の人口分析の専門家達は、人口に占める子供(0~14歳)の比率が30%以下、高齢者(65歳以上)が15%以下になると、国連が推定する「働きの窓」が開くと見做している。日本は1995年で窓が閉じている。アメリカもあと2年ほどで窓が閉じる。中国も2025年と推定に近く閉じてしまう

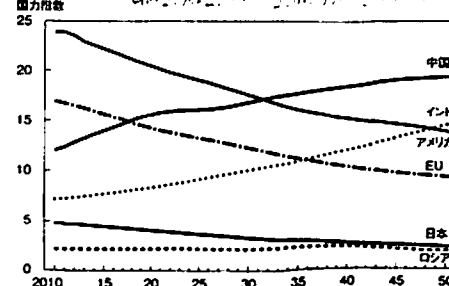
出典: Santa Nacional Laboratories

■ 新モデルでの国力比較



新モデルでは米中の定数は2043年ごろ。日本やロシアの停滞に歯止めがかかることはない

■ 旧モデルでの国力比較

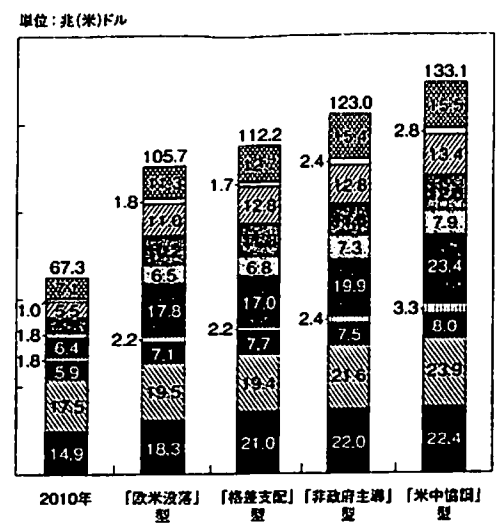


アメリカと中国の国力が定転するのは2032年ごろ。インドの躍進も目立つ

2030年のシナリオ①「欧米没落」型
 2030年のシナリオ②「米中協頂」型
 2030年のシナリオ③「格差支配」型
 2030年のシナリオ④「非政府主導」型

2000年のシナリオ①「欧米没落」型
 2000年のシナリオ②「米中協頂」型
 2000年のシナリオ③「格差支配」型
 2000年のシナリオ④「非政府主導」型

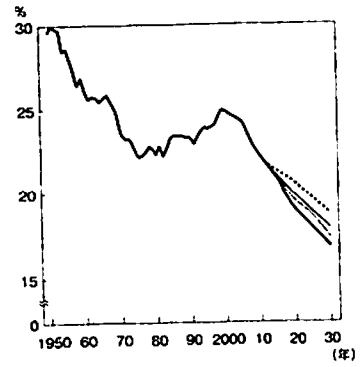
2030年の世界のGDP分布



- その他地域
- サハラ砂漠以南アフリカ
- ▨ ラテンアメリカ
- その他アジア諸国
- インド
- 中国
- ロシア
- 日本
- 欧州
- 米国

出典：McKinsey Global Growth Model

世界経済に占める米国の実質GDPの割合 (1950～2030年)



左のグラフからも明らかのように、4つのシナリオのうち、「米中協頂」型のときに世界経済はもっとも成長する。ほかの3つのシナリオと比べ、米国経済ももっとも拡大するが、他国・地域の経済も伸びるために米国の相対的な存在は薄まる。一方、「格差支配」型のシナリオでは、米国経済は成長したが、ほかの国・地域も伸びるために、世界経済のなかで比較的高い比重を維持する。

シナリオ②「米中協頂」型

グローバル経済	先進国、新興国ともに経済が成長。世界経済は2030年までに約2倍の132兆ドルに達し。
紛争	南アジアでの軍事協力をきっかけに米中が協力関係を結ぶ。同地域での安全保障分野での協力が顕著となり、ほかの地域や分野での協力も可能になる。
不安定地域	南アジアと中東で紛争の火種が残る。米中を中心としたさまざまな取り組みが世界に広がり、和平の機運を高める効果をもたらす。欧州も力を取り戻す。中国が民主化されれば、アジアの安全保障は安定する。
統治力	中国で民主化が進むことが第一条件となる。その後、米中両国の大企業間の協力が進む。最終に、国際機関の更新が起こる。
技術	科学や情報分野で、国境を越えた協力が進む。資源の有効活用などの技術開発が進む。
米国の役割	技術革新力で世界トップレベルを維持し「アメリカンドリーム」が復活。米国以外の地域での紛争解決に重要な役割を果たし続ける。「紛争」よりも「協同」を優先する考え方が世論に浸透し、「米国の衰退」を危惧する意見は減る。
欧州	財政危機問題は、EUの政治や経済の仕組みを革新する好機になる。
ロシア	最新の科学・情報技術を武器に、国際競争力を高める。多民族・多民族の土壌を生かして、文化交流や芸術の国際化を進める。
中国	ソフトパワーが強化され、民主化が進む。世界規模でもアジア地域の仕組みでも重要な役割を果たす。
インド	中国との関係は改善するが、パキスタンとの対立は続く。国際的な協同ムードのなかで、ハイテク産業が世界に受け入れられる。エネルギーと水の管理技術が進み、経済成長が速く。
その他の新興国	ブラジルの科学者がアフリカの国境保護で活躍する。先進国が力を維持するため、「欧米没落」型シナリオよりも出番は少ない。
新興国	世界的な協同体制が広がるなかで、食料やエネルギー問題で経済支援を受けやすくなる。

シナリオ①「欧米没落」型

グローバル経済	先進国、途上国問わず、世界全体で経済が低迷する。食料価格の高騰も進行して入る。
紛争	米国と欧州が他の地域に対して介入する力を失う。アジアで「覇権争い」が、中東ではシリア系とスンニ派の対立がそれぞれ激化。イスラエルとアラブ人同士の関係が悪化する。
不安定地域	中央アジアや中東で統治力が低下。疫病の拡大で東南アジア、インドやアフリカの一部、海沿国などが情勢不安に陥る。
統治力	疫病の発生で、先進国と発生地域との交流は減る。イデオロギーによる東西対立、東西の対立による南北問題はより深刻化する。
技術	シェール系燃料の技術開発が進む。情報技術(IT)は世界各國をつなげるのに役立つ。
米国の役割	内向き姿勢を強める。アメリカの世論は自国が世界のリーダーであることに安心し、疫病発生後は、孤立主義も台頭する。
欧州	欧州内の問題だけで手いっぱいになる。
ロシア	米国の力が衰退するなかで、アフガニスタンや中央アジアなどの近辺地域で影響力を伸ばす。
中国	政治、経済の構造改革に失敗。政治腐敗や経済活動が停滞となり経済成長は落ち込む。政府は国際主義、排他主義の両方を強める。
インド	アジアでの覇権を握る中国と対峙する必要があり、弱小国連の米中からは支援を受けられない。
その他の新興国	紛争輸出国であるブラジルは、食料価格の上昇で悪影響を受ける。米国と欧州の没落で生まれた機会の真逆を辿るようになる。
新興国	地域紛争や食料高騰の悪影響でより困難になる。疫病による被害も甚大。国際的な支援なしで復興するのはほぼ不可能な状況になる。

シナリオ④「非政府主導」型

グローバル経済	世界的な協同ムードが経済成長を後押しする。
紛争	非政府団体の各団が異なるテロや犯罪集団が台頭する。こうした集団が破壊力の強い武器や技術を入手すると危険。
不安定地域	メキシコの市長・市長らが腐敗の場で犯罪者を持つようになる。国の代表だけでなく、地域の代表も腐敗の場に巻き込まれる。世界じゅうで経済発展地域の設置が進む。
統治力	国家はなくなり、その役割は国と国と非政府団体の協働で担うことになる。NGO、多国籍企業、IT企業、世界的な科学者などの活躍の場が広がる。
技術	「ソーシャルメディア」「情報通信」「ビッグデータ」の3つのトレンドが政府と非政府団体の交流促進に役立つ。
米国の役割	米国で設立された非政府団体が多く、米国は意思決定の場に影響力を維持する工夫を続ける。
欧州	NGOや大学、多国籍企業などのソフトパワーをフル活用して影響力を維持する。欧州の協同の歴史が、多くの地域で模範として参考とされる。
ロシア	テロや犯罪集団の増加に神経を尖らせる。腐敗の場で、非政府団体の受け入れようとする世界的な潮流と対立する場面が増える。
中国	一党独裁体制の考えから抜け出せずに、国際社会で孤立。
インド	世界じゅうで活躍する同国出身の技術者や守るネットワークが経済発展に大いに役立つ。急速に進む都市化の問題を乗り越えれば、発展途上国の成功の代表になる。
その他の新興国	「偽2国」の活躍の場が増える。腐力にとらわれず、効果的な非政府団体を築けば特色は出る。
新興国	腐力を経済発展につなげることができるかどうか、貧困脱出の力を握る。

シナリオ③「格差支配」型

グローバル経済	世界経済の成長率は2.7%。「欧米没落」型よりは上だが、「米中協頂」型や「非政府主導」型には劣る。米国経済は停滞する。欧州の一部の国は国際競争力を高めるが、南欧諸国は取り残される。EUは事実上崩壊する。中国は富の分配に失敗し、成長力が減る。
紛争	アフリカや中東、アジアを中心に、都市部農村の対立が激化する。テロ集団が生物兵器や無人機を開発し、サイバーテロの手遣も高度化。常にテロ行為に巻き込まれることになる。
不安定地域	アフリカで、民族や宗教・宗派による紛争が激化。フルド島の合戦で、中東では国境線の一部が見直される。欧州や中東、インドでは、政治や社会、世代間紛争が起きる。
統治力	疫病問題は関係できない。国際機関が減り、腐敗する国が多い。
技術	米国でシェール系燃料の開発が進み、オーストラリアなどの産油国は打撃を受ける。多くの国の政府が、個人が力を拡大しすぎることを危惧するようになる。最終的には、西側諸国も中国とロシアに傾倒。インターネットの自由が使用を制限する。
米国の役割	孤立主義的な姿勢を強める。ただ、最終的には、テロ集団などの脅威に対抗するため、一部の地域で特殊部隊と協力して治安維持に乗り出すようになる。
欧州	一党で活動することができなくなる。欧州が一体となって国際社会で影響力を維持するという理想は減る。
ロシア	エリート層を特化したサイバーテロが増加し、経済成長が停滞される。腐敗の問題を懸念する米国や中国、中東のエリート層との交流が進み、共同で対応を打ち出す。
中国	都市部と農村部の経済格差が拡大し、腐敗の不安が高まる。共産党は支持を失う。毛沢東主義が再び台頭し、富の分配の危機に陥る。
インド	非政府団体のテロ行為が増加して経済成長が低迷する。
その他の新興国	ブラジルでは経済発展の取り組みが弱まり、社会情勢は安定した状態を維持する。一方、トルコではフルド島が特定の勢力を握り、社会の腐敗が進む。こうした孤立の状況は、新興国にとっても悪影響となる。
新興国	世界的な非政府団体、新興国への支援は減る。食料不足で国内紛争が増える。腐敗問題からの人権支援も期待できない。